

森林空間の活用による地域の活性化

はじめに

先月号で森業の全体像を紹介しましたが、今月号ではその具体的な取組として、森林空間の利用について取り上げます。

1982年(昭和57年)には、林野庁が「森林浴(Shinrin-yoku)」を提唱し、森の香りや音、光、空気など、五感を通じて自然と触れ合うことで、ストレスの軽減や免疫力の向上などの効果が報告されました。また、近年では森林空間を活用したマウンテンバイクなども注目されており、このような取組は、心身の健康の維持・増進に寄与するだけでなく、地域の魅力を高め、地域の賑わいや所得向上、関係人口の創出・拡大にもつながる可能性を秘めています。

企業による森での体験プログラムの活用

森林空間利用の大きな需要先の1つが企業です。

「D&Kラムダ株式会社」では、若年層社員を対象とした研修プログラムに森林セラピー[®]や森林整備活動などの協働作業を取り入れています。社員は、森林空間の中で五感を通じて自然と触れ合いながら、チー

ムでの課題解決やコミュニケーションを体験することで、心身のリフレッシュと職場への帰属意識の向上を図っています。こうした取組は、社員のストレス軽減やエンゲージメント向上に寄与し、実際に離職率の低下という成果にもつながっています。

また、森林整備活動では、地域の林業関係者と連携し、社員が自然環境や森林管理の実情に触れる機会を得ています。地域側も企業の人材が森林保全に関わることで作業支援や交流の場が生まれ、信頼関係の構築につながっています。地元の食材を使った昼食の提供なども行われており、企業研修が地域との接点を生む仕組みとして機能しています。

このように、企業による森林空間の活用

新卒採用者人数・早期離職率の比較

	都市で研修 (05-07年)	山村で研修 (08-21年)
新卒採用者	43人	194人
3年以内退職者 (離職率)	5人	7人
	12%	4%



森林浴



焚き火を囲んでコミュニケーション

は、社員の健康や組織力の強化に加え、森林整備や地域との関係構築にも波及効果をもたらしています。

森林空間利用を通じた森林づくり

森林空間の活用は、持続可能な森林づくりにもつながります。神奈川県小田原市の株式会社「FFOREST」では、江戸時代から続く辻村農園・山林の森林経営を継承しながら、現代的な森林空間利用を通じて新たな森林の価値を創出しています。



間伐後の森林

同社が運営する「フォレストアドベンチャー小田原」やマウンテンバイク専用コース「フォレストバイク」では、樹木を伐採せずに設置された施設を通じて、来訪者が森林の中で自然と一体となる体験を楽しめるよう工夫されています。森林空間を活かした設計により、利用によって森林の機能が損なわれることなく、下草の整備や間伐などの管理作業が促進され、森林環境の改善にもつながっています。こうした取組は、森林空間の魅力を引き出すと同時に、保全活動と連動し、利用者の増加が森林整備の継続的な動機づけとなっています。

このように、森林空間の活用が森林づくりの担い手を広げ、地域の自然環境の保全と活性化につながる好事例として、T・FORESTRYの取組は全国から注目を集めています。



森林内に設置されたアスレチック



マウンテンバイク専用コース「フォレストバイク」

森林空間を活用した取組の拡大に向けた林野庁の取組

林野庁では、森林空間を活用して体験プログラムを提供している地域について、近隣施設等の特徴と一緒に紹介シートを作成し、順次公表しています。

また、他省庁事業も含めて活用可能な補助事業をとりまとめた一覧表を作成し、事例とともに紹介しています。

さらに、毎年2月には、東京都内において、推進地域の関係者や森での体験プログラムの活用に関心のある企業等を対象とした「山村と企業をつなぐフォーラム」を開催し、同地域と企業とのマッチング機会を提供しています。

本年度は、2月のフォーラムに加えて、11月27日・28日に大阪府において、推進地域の関係者や森のプログラムの活用に関心のある企業等を対象とした「森のプログラム活用セミナー&日帰り体験会」を開催する予定です。

おわりに

森林空間の活用は、健康・観光・地域振興といった多様な分野をつなぐ可能性を秘めており、こうした取組を持続的に発展させることで森林づくりを支え、地域の未来を育てることが期待されます。

次回は、企業による森林づくりの事例をご紹介します。